

第三次評価者（学識経験者）の講評

元校長 野 尻 泰 弘

○鷹が舞っているような広がりのある屋根瓦などいかにも武士の子弟が学ぶ藩校を思わせるような風格のある高巣野小である。遠くの山脈は心が大きくなりそうである。新築された頃は視察が多かったと聞く。

○校長先生は学校が発展を期するために、笑顔が増える職員の働きやすい環境作りを目指しおられる。職員に対して、①互いに褒める、称える、賞賛する②自分が子どもより先にあいさつする日常的な雰囲気作りを目指している。

○今年も1年生が8名入学した音楽の時間は伸び伸びと楽しそうにしていた。校庭で縄跳びに取り組む児童は、昨年同様に活気にあふれ、期待に満ちた学校になってる。

○確かな学力の定着では実質45分の授業を充実させ、「分かる授業」「鍛える授業」「感動のある授業」を展開し、確かな学力を身に付けた児童の育成を目指し、高い評価を得ている。

○全国学力調査及び県の学力の結果でも全国平均や県平均を上まわっている。ICT機器の活用を社会の学習で見ることができた。

○読書指導や読み聞かせを実施している。2階の広場に新聞コーナーを設置したり、読書の雰囲気づくりに努めている。国語の時間は読書の場所として有効に活用されている。

○豊かな心の育成では、あいさつや礼儀指導が徹底されている。児童、保護者、教員共に高い評価を得ている。来年度は学校だけではでなく、地域においても進んで大きな声であいさつができるように継続した指導を行う予定である。

○5月に実施した新体力テストの結果により、児童は自分の課題を確認し。「らんらんタイム」で課題克服のための練習に熱心に取り組んでいる。

○「早寝、早起き、朝ごはん」についてはよくできているが、立腰の成果は、今ひとつである。集会では姿勢棒の活用、すこやかチェック・アウトメディアの取組を家庭と連携を図りながら継続していく。

○地域の協力は素晴らしい。いつも危険な国道沿いを登下校する児童とともに歩いて下さる地区の皆さんに感謝したい。奉仕作業も地区の皆さんの行事のようである。学校行事では団七踊り、神楽などの指導に積極的に参加していただき、地域の学校、児童として大切にいただいている。